

## 挑む!

ボクシングで子の健全育成目指す

鈴木 哲也さん(36)

## 10代のパンチ受け 成長促す



大阪府八尾市出身。小中学校時代は野球少年。2014年にプロボクサーを引退。戦績は29勝(17KO)12敗。現在は家業の建設資材会社を継いでいる。

毎週木曜日の夜、大阪府八尾市内のジムで10代のパンチを受け、一緒に汗を流す。逮捕・補導されたり、長期間不登校だったりした子どもたちだ。高校時代、ボクシングは高校生でもプロとして活躍できると知り、17歳で

プロライセンスを取得。ミドル級で日本王者、東洋太平洋王者に輝いた。日本王者時代、子どもの更生保護活動に励む団体に依頼され講演した。ボクシングは「自分との戦い」。厳しい練習や減量に耐える。冷静に戦うため

心をコントロールする。「誘惑に負けてはだめ」と伝えることが「第二の人生で取り組むべきもの」と確信した。

2013年に青少年の健全育成をめざすボランティア団体「八尾地区BB S (Big Brothers and Sisters) 会」の会長に就任。全国に約500の地区会があり、八尾地区の特徴はボクシングをとり入れたグループワークだ。15年に支援者が提供してくれた倉庫に会専用のジムを完成させた。様子が気になる子がいれば、電話をかけ、ご飯に誘い、「お兄さん」として悩みにも耳を傾ける。

非行少年がプロボクサーを目指すようになったり、不登校の子が登校を再開したり、成長や変化を実感してきた。「一つのこと熱中することで前向きになれる」。生涯、活動を続けるつもりだ。

文・写真 大野正智

記者から

常に笑顔を絶やさない、優しい「お兄さん」。ボクサーのイメージが変わりました。